

1 研究主題

「できる喜びを感じ、仲間とともに伸びる体育指導の工夫」

2 研究の概要

今年度は、糸魚川市教育研究会体育部の研修として、糸魚川市立田沢小学校の公開授業を行った。研究主題を受け、事前に児童に意識調査を実施し、できる喜びを感じる手立て、仲間との学び合いの場を設定した。タブレット端末を活用することで、学び合いの活性化、自分自身の技の完成度の振り返りを、より効果的に行う授業をめざした。

3 研究の実際

○ 授業公開・協議会、全体会指導

期 日：平成 28 年 1 月 8 日（火） 授業者：川合 貴幸 教諭

会 場：糸魚川市田沢小学校

単元名：第 6 学年 体育科 器械運動「マット運動」

<授業の概要>

研究主題に迫るために、「運動感覚を高めるための工夫」「アドバイスポイントの明確化による学び合い」「技の見る視点の共有」を手立てとした。単元構想は、全 8 時間を設定し、後転、開脚後転、伸膝後転の 3 つの技の完成度をあげ、発表会を行うものであった。本時は、2 時間目で、技のポイントを確認し、相互評価をしながら後転の出来栄を高めることをねらった授業の公開であった。

本時の導入は、準備体操・感覚づくり運動（ゆりかご、ダンゴ虫、かえるの足打ち、うさぎ跳び、尺取虫）から行った。その後、本時の学習課題「きれいな後転をめざそう」を示し、粗形態と精形態の 2 つの動画をテレビで見せ、技のポイント（マットを押す、つま先から着く、ひざを曲げすぎない）を確認した。

展開は、各グループ（4 人ずつ）に分かれ、前時の自分の動画を確認し、本時のめあてを立てるところから入った。グループで後転の練習に取り組む中で、友達からのアドバイスを参考に練習を重ねた。途中で技の完成度が高い児童 2 名をピックアップし、全体練習を止めて全体で技のポイントを確認した。確認後、ポイントを生かし練習を再開した。

終末では、自分の後転を動画に撮り、今日の振り返りを行った。さらに、次時に行う開脚後転を動画に撮り、本時の振り返りを学習カードに書いた。

<協議会の概要>

協議会（全体協議、グループ協議）では、タブレットを活用した授業構想・展開を評価する声や、タブレットを使用することで 1 時間の変容を視覚的に児童が理解できるメリットがあるという声が聞かれた。一方で、うまく回れていない児童への配慮はあったのか、スモールステップで行える場の工夫が必要ではなかったのか、グループ分けは生活班でよかったのか、できない児童はできる児童へアドバイスはできるのか等の意見も出された。

○ 全体会指導

糸魚川市立糸魚川東中学校 校長 宮川久良様よりご指導をいただいた。マット運動では、靴を脱ぐこと（マットにひっかかる、靴が飛ぶ、マットの衛生面）。そして、「きれいな」後転とは何かを児童に明確に捉えさせる。そのために、絵やポイントがかかれたものを掲示し、視覚的に捉えさせることが必要である。また、練習の場をより用意することで、自分の力に合わせて練習の場所を変えられるようにする（運動量の確保）。アドバイスをするという事は、学級経営が基本になる。友達同士のかかわりはもちろんであるが、教師との関係も重要である。たくさん褒めて、自己肯定感を高め、マット運動や体育が好きな児童を育てていくことを指導していただいた。

4 成果と課題

研究主題に迫るための 3 つの手立ての有効性と改善点、また、タブレット端末がその一助となるのかどうかの議論から、参会者の多くが自分自身の実践を振り返り、明日からの授業を考えるきっかけとなった。研究主題を数年同じにすることで、様々な視点から「できる喜びを感じ、仲間とともに伸びる体育指導の工夫」を今後も考察していきたい。